

二つの巡礼路を結ぶ絆

〜四国遍路とサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路〜

7月12日から11日間、NPO法人「遍路とおもてなしのネットワーク」(香川県高松市)の松田清宏(きよひろ)副理事長(「JR四国会長」)を団長とする16名が、スペイン北西部の町モリナセカ町やレオン県を訪問しました。

共に巡礼路が通る町として、モリナセカ町と従来から友好関係にある愛南町からは、清水雅文(まさふみ)町長をはじめ、町議会議員など計6名が参加しました。
今回の訪問の一部と交流参加者の感想をご紹介します。



生き木観音像



スペイン料理に合う日本酒「mar」(愛媛県酒造組合提供)で乾杯



開眼供養の様様

モリナセカ町において

モリナセカ町は、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路(世界遺産)が通る町です。愛南町は、3年前にもモリナセカ町を訪れていますが、美しい自然に囲まれた静かな町でした。モリナセカ町を流れる大きな川では、夏休みに入った学生たちが水浴びに興じていました。

モリナセカ町では、仏師凡海(ぼんかい)さん(香川県観音寺市)が約3か月かけてクルミの木に彫刻した生き木観音像の除幕式と開眼供養が行われました。式では、カステイージャ・イ・レオン州政府及びレオン県庁からも関係者が列席され、また道行く巡礼者たちも足を止め、ともに観音像の完成をお祝いしました。

また、モリナセカ町で催された日本・スペイン合同の夕食会では、愛媛県酒造組合がブランド化している日本酒「mar」(マール)で乾杯しました。

そのほか、モリナセカ町庁舎において、地方自治制度についての意見交換を行いました。議員が首長を兼ねるなど、日本とは違うスペインの地方自治制度に、参加者一同驚きました。日本では、全国的に市町村合併が進んでおり、基礎自治体への権限移譲が行われていますが、スペインでは、逆に小規模な自治体が多く、大きな権限が県や州にあるようです。



ユーカリの森を抜ける
サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路

カステイージャ・イ・レオン
州政府代理人

ギジェルモ・

ガルシア・マルティン氏

このモリナセカの町は、サンティアゴの巡礼路の町でして、たくさん巡礼者がこのモリナセカの町を通って巡礼をするわけです。そのサンティアゴに向かうたくさん巡礼者が通るこの庭に観音像ができるということは大変喜ばしいことだと思います。

もちろん、観音像というのは仏教の像で、私どものキリスト教とは違う宗教ですが、この地にこの像を持つことにより、違う宗教の地域が一つにまとまるということを強く期待します。

文化、宗教が違ってても、この観音像を通じて、交流が一層深まること、四国のお遍路が世界遺産に登録されることを強く期待します。

レオン県副知事

ホセ・アントニオ・ベラスコ氏

昨年の10月に、この地に日本の佐藤大使が巡礼路を通じた交流ということでお見えになりました、この庭の向こうの方に記念碑を建立され、桜の木を植樹されました。このモリナセカのアルベルゲ(巡礼宿)の庭に観音像ができました。除幕式・開眼供養という式典をすることに至ったわけですが、この儀礼を通じて日本とスペインとの交流がますます盛んになることを私は強く期待します。



左から、ホセ レオン県副知事、ギジェルモ レオン州政府代理人、
仏師凡海さん、アルフォンソ モリナセカ町長

モリナセカ町長

アルフォンソ・アリアス・バルボア氏

この交流の目的は、文化交流を通じて日本とスペインの友好関係を一層強固なものにするとともに、モリナセカ町、ヒエルソ郡及びレオン県の多方面にわたる友好に寄与するものであります。

2008年来、交流を続けておりますが、まだまだ文化や歴史的遺産についてお伝えすべきことが多く残っています。また、日本の興味深い文化や生活様式・習慣について学ぶべきことが多く残されています。

2010年、愛南町長、宇多津町長、NPO法人の方のご招待でモリナセカ町役場の代表団が四国を訪問しました。愛南町と宇多津町の皆様とは、いろいろな行事を一緒に行うことによって私たちの友好関係はますます緊密なものとなりました。

その後幾度にもわたって私たちは交流を続けてきましたけれども、この絆をさらに強固なものにし続けると同時に、この交流によって得られる両者にとつての素晴らしい成果、また文化面の繁栄だけでなく、観光や経済の実りある交流への新しい扉を開く可能性を考慮に入れたら、交流の範囲を広げようとするものであります。



モリナセカ町庁舎にて
意見交換する愛南町訪問団

レオン県庁表敬訪問

レオン県知事

マルティン・マルコス・マルティネス氏

四国にも巡礼路があるということですが、このサンティアゴ巡礼路は、その全長の中でレオン県を通過する距離が200kmと一番長くなっております。このレオン県には観光資源がたくさんありまして、巡礼路だけでなく、自然、文化、遺跡、県庁隣にはガウディが設計した建物もあります。レオン県は、いわば日本の観光客をお迎えるリーダー的な役割を果たして、統計によると年間10,000人〜12,000人の日本の観光客がこのレオン県を訪問しているという事になっています。

マルティン レオン県知事(清水町長の右隣)を囲んで



今回、訪問団には、直接、私どもの文化、遺跡などのいろいろなものに直接触れてもらって、日本に持ち帰っていただくことを期待します。この交流が観光だけでなく様々な分野に広がっていくことを希望します。

今年、日本とスペインの交流400周年の記念すべき年ですが、この記念すべき年に皆さんにこうやってお会いできたことは大変意味のあることだと思っております。これを機会に新しい交流の扉を開きたいと思っております。



ガリシア州観光局表敬訪問

ガリシア州政府観光局長

ナバ・カストロ・ドミンゲス氏

日本とは和歌山県と長年にわたって交流しておりますが、最近、新たに四国4県との交流が始まることになり、期待しております。現在、四国とのお付き合いを正式なものにしようとして準備しているところですが、整えば四国をぜひ訪問したいと思っております。

ガリシア州にはいろいろな巡礼路が通っていて、合計すると1,300kmあります。その道を通ると、私どもの自然、文化、遺跡など、いろいろなものを知っていただけます。ガリシア州は、スペインのほかの所に比べて自然が大変豊かで、また食べ物が大変おいしい所です。特に、海産物がおいしく、また種類が多いので、海産物を中心とする料理を楽しんでいただくことができます。

ここには、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂巡礼の最終目的地。世界遺産があります。大聖堂では、巡礼が終わるとサンティアゴ像に後ろから抱擁する伝統があり、また巡礼者の最後の行事となる「ボタフメイロ」があります。サンティアゴ巡礼が完了すると、この大聖堂の巡礼事務所です証書「コンポステーラ」をいただけますが、それをいただくためには最後の100kmを自分の足で歩かなければなりません。

現在、巡礼を完了した人数は、アジアで一番多いのは韓国ですが、おそらく2番目に多いのが日本人ではないかと思っております。サンティアゴ巡礼をする日本人は、年々増えています。1日平均20km歩くと5日間で100km歩くことができますので、日本からのたくさんのお客をお待ちしております。



ナバ ガリシア州観光局長(清水町長の左隣)を囲んで



佐藤悟在スペイン日本国特命全権大使(右から2番目)と大使公邸庭にて



サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂のポタフメイロ

スペイン訪問に寄せて

清水雅文^{まさふみ} 愛南町長

巡礼路を縁にして始まったモリナセカ町との交流ですが、5年目になりました。四国では世界遺産登録をめざして様々な取組をしている中で、交流がその助けとなり、いつか実を結ぶものと確信しております。

サンティアゴ巡礼は、若者が多く、また家族で子どもを連れていたり、老若男女、様々な年代の方が巡礼しているという印象です。何箇所か巡礼路に立ち寄りましたが、場所によっては巡礼者が数十メートル間隔で切れ目なく歩いているなど、年間20万人を超える巡礼者の数の道しるべ、また安価なアルベルゲ(巡礼宿)も整備されており、日本に比べて巡礼に参加しやすい環境にあるのではないのでしょうか。近年、四国のお遍路も外国人の方が増えています。世界遺産登録に向けての環境整備が進めば、国内外からもっと四国に来ていただけることでしょう。

そして、今回、サンティアゴ巡礼路沿いには魅力ある場所、文化、遺跡等がたくさんあることを知りました。町民の皆様にも、スペインの魅力をもっと知っていただけたらと思います。

モリナセカ町が属するレオン県とは、愛媛県ともども交流をさせていただいている経緯がございますが、記事にありますように、ガリシア州を含むスペイン側とは四国4県との広域的な交流を見込んでいます。今後、お互いの巡礼路をきっかけとした文化的な交流が、観光、経済等の多方面の交流に広がっていくことを期待します。



愛南町議会 山下正敏^{まさとし} 議長

16時間の空の旅を経て、スペイン各所を訪問してきました。モリナセカ町では、同僚議員とともに、アルフォンソ町長、モリナセカ町議会議員と交流を深めました。スペインでは、町長、県知事がそれぞれ町議会議員、県議会議員の中から選ばれるなど、住民による直接選挙が少なく、自治意識が強いスペインの一つの特徴かなと感じました。しかしながら、仕組みが違えど、議員は地域住民のために活動し、住民福祉の向上をめざすという点では同様でした。

モリナセカ町は観光産業が盛んな町で、レオン県も日本人観光客をより多く迎えたいとのこと。今後も交流を続ける中で、観光、産業の振興等でお互いにメリットになるような関係になればよいと思います。スペインでは、笑顔で「オラ！(こんにちわ)」と明るく爽やかに歓迎されました。四国遍路のおもてなしに通じるところが、そのようなおもてなしの心が人を呼び、町として発展する一つのキーとなるのではないのでしょうか。

トレッキング・ザ・空海あいなん実行委員会 徳岡朗^{あきと} 実行委員長

なだらかな丘の道、おびただしい数の発電用の風車、木々の少ない山々など、日本とは風景の違つ、直射日光にさらされる巡礼の道中、セミの鳴き声も聞こえない、季節感のない暑い暑さに、私自身少し寂しく思いました。

しかし、道行く巡礼者を見ると、私がこれまで四国遍路で日常的に見ている巡礼の様子とは違っていました。驚いたことに、小学生くらいの子どもから高齢者の方まで実に様々な人たちが、巡礼をまるでハイキングをするかのように楽しんでいるのです。

街では、建物寿命が短い、地震大国日本では考えられない、歴史ある建物が数多く残っていました。その街並み、大聖堂、遺跡など、あたたかもタイムスリップしたかのようで、その景観に圧倒されました。反面、街中であっても公衆トイレが少なく、愛南町で進めている休憩所やトイレの設置をありがたく感じました。

お接待の心が根付く四国の遍路道を、関係者としてこれからも大切にしていきたいです。